

検証 検証2005年の自然災害

Assessment of Disaster Damage in 2005

# 集中豪雨

わずか数時間で平和な日常を破壊する  
集中豪雨の猛威



集中豪雨で川から水があふれ出す（東京都中野区大和町）〔写真提供 / 読売新聞社〕

2005年の集中豪雨は2つに大別される。梅雨前線によるものと、速度の遅い大型台風が秋雨前線を刺激して起こったものだ。

梅雨前線によって大きな被害を受けたのは北陸地方である。6月27日から29日にかけて集中豪雨が発生、新潟県、富山県で局地的に総雨量が300mmを超えた。柏崎市柏崎では27日～29日の総雨量が275.5mmと、6月平均の月雨量132.5mmの2倍以上だった。

豪雨はその後、7月1日から6日には中国地方、8日から10日には中部、九州地方で発生し、死者を含む人的被害や浸水などの住家被害が相次いだ。

一方、9月4日～5日にかけて、秋雨前線と台風の影響による集中豪雨が東京を直撃した。東京都23区西部が最も降りが激しく、杉並区下井草では1時間雨量112mm、総雨量263mmを観測した。この雨で都内を流れる一級河川荒川水系神田川と支流の妙正寺川、善福寺川など8河川があふれて氾濫。中野区、杉並区を中心に都内で6000棟に及ぶ浸水被害が発生した。豪雨は隣接する埼玉県や神奈川県でも猛威を振るい、各地で人的被害や住家被害が発生した。



緊急流入措置を実施した神田川・環状7号線地下調整池妙正寺川発進立坑〔写真提供 / 読売新聞社〕